

逍遙点描

— 絵と文・中嶋嶺雄 —



忘れがたきウィリアムスバーグ

アメリカ独立戦争以前のコロニル風をとどめる美しい田舎町・ウィリアムスバーグを私が初めて訪れたのは1967年の春だった。ウィリアムスバーグ・ロッジで開かれた日米円卓会議に出席して、D・リースマン、E・ライシャワー、ダニエル・ベル、スタンレー・ホフマン、ロバート・スカラピーノの各氏ら、当時のアメリカを代表する第一級の知識人とヴェトナム戦争や中国の文革について議論したこととともに、この地の美しい風景が忘れられなかった。

いつか再訪したいと思っていた私は、1982年4月にシカゴで開かれた全米アジア研究学会(AAS)年次大会での報告のあと、ワシントンD.C.から子供連れで春たけなわのあまりにも長閑かなヴァージニアの農村をドライブ旅行して15年ぶりにここに泊まった。ウィリアムスバーグは、以前に較べるとかなり俗化しているのが残念であり、翌83年5月には第9回サミット(先進国首脳会議)も開かれて、その名が世界に知れわたっていった。ただ、このスケッチのGoverner's Palaceに近い生牡蠣などのsea foodで知られたCampbell's Tavernは昔のまま、土曜の夜、予約なしだったのに、15年ぶりの来訪を告げると、私たちのために特別に席を確保して大いにサービスしてくれた。

(東京外国語大学教授)



ASIA MONTHLY

東亞

1989

12

No. 270

[中国近代化への道] (最終回)

中国政治の現状と展望

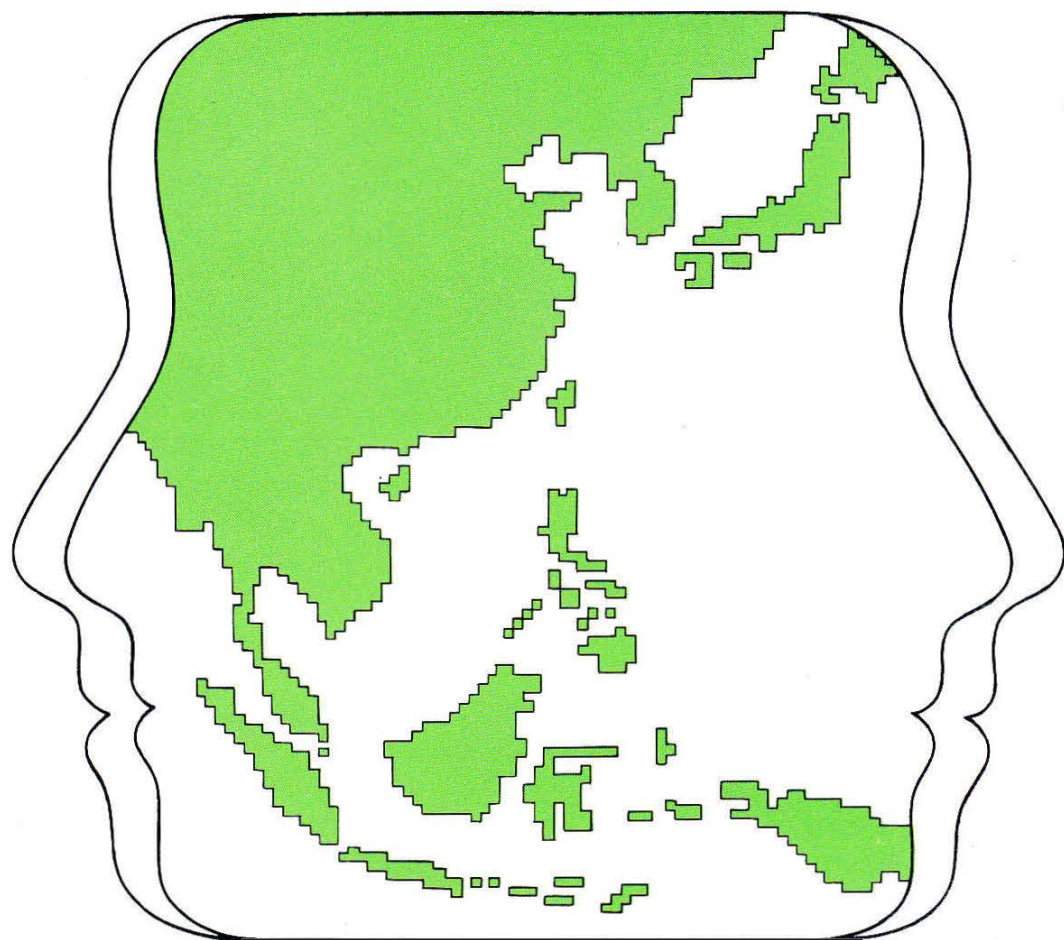
国分良成

[対談]

映画で中国を考える

—「失われた青春」「狂気の代償」「ハイ・ジャック」—

山田辰雄 戸張東夫



KAZANKAI